

「100年もつ橋を実現せよ」——  
クリテック工業「ハイブリッドジョイント 3LⅡ」  
耐久性 100年を公式証明

業界の「変えられない常識」に挑み、メンテナンスゼロ・渋滞ゼロの未来へ。  
3LⅡが実績と共に証明した、伸縮装置の新たな常識



【YouTube 動画】 [クリテック工業 日本初！耐久性 100年を証明！ 橋梁用伸縮装置「ハイブリッドジョイント 3LⅡ」](#)

「橋を支える、とは未来を支えることだ——」

そう語るのは、株式会社クリテック工業（本社：東京都港区）代表取締役の若林勇二。2018年に開発・発表された橋梁用伸縮装置「ハイブリッドジョイント 3LⅡタイプ」は、これまで国土交通省、NEXCO 各社、都市高速、地方自治体をはじめとする多くの公共団体に採用され、全国で実績※を積み重ねてきた。

そしてこのたび、第三者機関による疲労载荷試験により、超長期耐久性 100年を正式に証明。すでに高い評価を受けてきた 3LⅡが、その実力を科学的にも裏付けた。“100年”の耐久性を日本で初めて証明したこの製品は、全国 73 万橋という社会インフラの未来を変える可能性を秘めている。

※198 箇所 約 2,894m（令和 7 年 2 月末現在）

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社クリテック工業 広報担当：水野 TEL：03-5403-7373 E-mail：info@cretec.jp

## 壊れることが「前提」だった世界で——

橋梁は全国に 73 万も存在するが、補修できる橋は年間 1 万程度にすぎない。従来の伸縮装置は 20~30 年で交換が必要とされ、補修を待つ間に再び交換時期を迎えてしまう。この「終わりなき交換の連鎖」に、税金、時間、渋滞、騒音という代償が伴っていた。「この負のサイクルを断ち切らなければ、日本の橋の未来は守れない」と若林は言う。



全国に橋梁は 73 万橋。補修できる橋は年間 1 万程度。補修を待つ間に再び交換時期を迎える——負のサイクル

3LⅡは、長寿命化にとどまらず、壊れるときも“いい壊れ方”をするように設計されている。破損時は目視で異常が確認でき、打音点検や超音波による検査が不要。つまり交通規制を敷く必要がない。これは住民の騒音被害や交通渋滞の抑制にも直結する。

## 開発の出発点は「絶望」だった

転機となったのは 2007 年、東名高速で起きた伸縮装置破損事故。国からの一斉取替命令が下り、当時、売上の 3 割を占めていた東名工事の急進的な要求に直面。「そんな急進的で大量の取替は対応できない……。このままでは会社が潰れる」と覚悟した若林は、大手発注に頼る従来の営業スタイルを転換し、地方のゼネコンや市町村に直接提案をはじめた。そして新たな製品の開発に挑んだ。

最初の製品は無残にも失敗に終わった。疲労載荷試験で、わずか 30 年にも満たず破断したのだ。だがその挫折から、応力集中という“構造上の弱点”を突き止めることに成功。「この厚さ 32 ミリの鋼板が破損するとは想像すらしなかった。でも、だからこそたどり着けた真理がある」。そうして改良を重ね、ついに誕生したのが 3LⅡだった。

## 商売にならないと言われても



クリテック工業 代表・若林勇二

「100 年もつなんて、仕事がなくなる」と業界関係者に言われたこともある。実際、伸縮装置の取替やメンテナンスが不要になれば、メーカーや関連企業の仕事は減る。

だが若林は、“必要のない規制”“必要のない工事”にメスを入れることこそ社会貢献だと信じている。「声にはならない声、つまり“渋滞は困る”“工事の音がうるさい”という市民感情。それを形にするのが私たちの使命です」と語る。



伸縮装置の取替工事やメンテナンスには、交通規制が伴う。規制が入れば渋滞が起これ、事故も起きる危険性もある



伸縮装置の取替工事では、コンクリートブレーカーなどを使用するため騒音が大き。振動の発生や粉じんの飛散、大型の重機を使用するため排気ガスによる環境負荷も大きい

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

## 誰もできなかった挑戦に成功した技術力

3LⅡは特許取得済みであるため他社が追随しない。それは単なる技術的な優位だけではない。**溶接による微細な歪みをわずか 1~2 ミリ以内に抑える高精度な製造技術と、圧倒的なコストパフォーマンス（従来製品比 1.1~1.2 倍）**を両立させた“匠の技”が、真似を不可能にしているのだ。

そして何より、**100 年の耐久性**——。従来製品なら 3~4 回交換が必要だった伸縮装置を、一度も取り替えずに済む未来へ。

クリテック工業は、インフラ保全の歴史に「誰も到達できなかった頂」を打ち立てたのである。



伸縮装置は施工前に綿密な検査を行う



高精度の技術力が 100 年という耐久性を実現した

## 生産量が社会を救う

「この製品を作れる工場も職人も減っている。後継者もない。でも、この製品が普及すれば生産量が上がり、地方の雇用も生まれる」。

3LⅡは、**技術者の育成、地域経済、そして未来のインフラ保全までつながる**、まさに“社会課題解決型プロダクト”である。

## 「東名を守った」という誇り

クリテック工業は創業当初から、日本最厳のインフラ環境である東名高速で実績を重ねてきた。「**日本の大動脈である東名に採用された製品だからこそ、全国どこでも自信を持って提案できる**」。若林の言葉には確かな誇りがにじむ。

100年後の未来に向けて、今、橋の下から静かに革命が始まっている。それが、クリテック工業の「ハイブリッドジョイント 3LⅡ」である。

——これは、すべての橋の、そしてすべての暮らしのために。



東名高速道路には隆垂高架橋をはじめ、多数のクリテック工業の伸縮装置が採用されている

<報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社クリテック工業 広報担当：水野 TEL：03-5403-7373 E-mail：info@cretec.jp

## 【取材受付のご案内】

最後までお読みいただき、誠にありがとうございます。

本リリースを通じてご関心をお持ちいただいたメディア・媒体の記者様には、ぜひ一度、「ハイブリッドジョイント 3LII」の技術と想いに触れていただければと願っております。

100年先の未来を見据えたものづくりの裏側には、語り尽くせぬ挑戦と、社員たちのひたむきな努力があります。

代表・若林より、開発秘話や社会的意義、現場での取り組みについて、**直接ご説明できる機会を心よりお待ちしております。**

**ぜひ、メールやお電話でお気軽にご連絡ください。**

## 【取材申込先】

株式会社クリテック工業 広報担当：水野

TEL：03-5403-7373 Email：info@cretec.jp



【YouTube 動画】【橋や高速道路のジョイント部品に特化し急成長！】司法試験10回受験…31歳で社会人に…常識打ち破る◎戦略株式会社クリテック工業若林勇二の挑戦ストーリー

## 株式会社クリテック工業

株式会社クリテック工業は、誠実な社員・協力会社・顧客との信頼関係を築き、社会に貢献し続ける企業を目指す橋梁用伸縮装置メーカーです。国土交通省、NEXCO、都市高速、地方自治体等の公共団体を中心に全国で採用実績があります。調査・設計・製造・販売・施工を一貫して請負い、超長期耐久性100年の「ハイブリッドジョイント 3LIIタイプ」をはじめ、高い耐久性と止水性で橋の長寿命化に貢献します。1996年設立。



## 【会社概要】

社名：株式会社クリテック工業

本社所在地：東京都港区新橋5-27-1 パークプレイス6F

代表取締役：若林勇二

事業内容：土木・建設業

設立：1996年12月

事業内容：橋梁用伸縮装置のメーカー（製造業）、  
橋梁用伸縮装置の調査、設計、製造、販売、施工

HP：<https://cretec.jp/>



<報道関係の方からのお問い合わせ先>

株式会社クリテック工業 広報担当：水野 TEL：03-5403-7373 E-mail：info@cretec.jp